

岡山大学桑の木留学生宿舎の実態と課題 — 留学生宿舎を教育資源として活用するために —

Conditions and Issues on Kuwanoki International Student Dormitory
at Okayama University: As an Educational Resource

宇塚万里子・岡益巳*・藤本真澄

Mariko UZUKA, Masumi OKA, Masumi FUJIMOTO

要旨

スーパーグローバル大学の指標の一つに受入留学生数の増加が掲げられているが、留学生受入に不可欠な留学生寮の整備は、以前からの長年の課題であった。安心して留学生活を送るための基盤でもある寮の管理・運営は、毎日の生活と密接な関係があり、文化背景や言語が異なる学生が共同生活を営む寮では、大小様々なトラブルがつきものである。

この状況を少しでも改善するため、岡山学では2014年にレジデントアシスタント（RA）制度の導入を皮切りに、日本人学生との混住化を推進してきた。従来の留学生支援という観点にとどまらず、1）「一住人」から自治意識をもった寮生への成長、2）留学生、日本人学生双方の日本・日本文化・異文化理解の促進、という教育的要素を加えた新しい国際寮の在り方を模索してきたといえる。その結果、支援の充実や教育的効果も見られた一方で、教育資源として寮を活用するには管理・運営だけではなく、積極的な学生指導の姿勢が肝要であることが分かった。混住化から4年経ち、導入初期の段階を終えた岡山大学では新たな局面を迎えている。

キーワード：留学生受入、混住寮、レジデントアシスタント（RA）、異文化理解

1. はじめに

宇塚・岡・藤本（2017）では、1999年11月から2017年3月にかけて岡山大学留学生相談室が関与した住居関連領域事案について、相談記録ノートを整理分析することによって、岡山大学に在籍する留学生が直面した住居関連問題を明らかにした。同研究の分析対象期間内に264件の事案が発生したが、そのうちの128件が本学の留学生宿舎に関わる事案であった。

21世紀初頭において岡山大学の留学生宿舎は、桑の木留学生宿舎（収容定員150人）のみであったが⁽¹⁾、現在では福居留学生宿舎（同21人）、国際交流会館（同73人）、国際学生シェアハウス（同120人）が加わり、4施設に増加している。

本稿では、宇塚・岡・藤本（2017）とは視点を変えて、留学生宿舎を教育資源として活

用していくための方策を探ってみたい。具体的には、桑の木留学生宿舎（以下、「桑の木寮」と略称する）に焦点を絞り、RA に対するアンケート調査結果を踏まえ、桑の木寮の現状と問題点を明らかにした上で、留学生の日本文化理解の促進及び日本人学生の異文化理解促進という二つの教育活動実践の場としての留学生宿舎の在り方を検討する。

2. 先行研究と本研究の意義

2.1 先行研究

正宗（2015a）はグローバル・ドミトリーに入寮している留学生を対象とした聞き取り調査を実施し、留学生の寮生活の実態に関して次の点を明らかにした。すなわち、①留学生にとって寮が自分の「居場所」となるには、いくつかの段階がある、②共同体の一員として行動することの重要性を強く認識している、③日本人または他国からの留学生との接触の機会が多く、交流内容の質がいいほど寮生活の満足度が高い、④1年という期間では日本的行動について理解できるものの、まだそれを実際の行動に移すに至っていない状態である、⑤日本語力によって寮環境の活用のしかた、周りから求められること、人間関係のネットワークの広がり方が異なってくる、⑥生活の空間的構造が人間関係構築に影響する。こうした実態を踏まえて、生活・文化・言語面などでサポート及び教育的機能を充実させることを提言している。

鈴木（2010）は、国公立大学の留学生専用寮、混住寮、借り上げ宿舎、さらには民間賃貸アパートや公的機関・民間団体が運営する寮などの現状に触れ、米国や欧州における留学生の住宅需要の質的变化に言及し、日本の私立大学の寮における教育目的化傾向を明らかにし、最後に今後の留学生住宅政策への問題提起を行っている。

鈴木・河合（2012）は、関西圏の国立大学在籍する留学生を対象とした住環境実態調査の結果に基づいて、留学生が求める住環境は日本人学生とあまり差がなくなっていることを証明し、鈴木（2000）の主張を裏付けている。

宇塚・岡・藤本（2017）で既に紹介したとおり、複数の大学に聞き取り調査を実施し、混住を通じた交流促進により日本人学生の国際性を育成する方針が顕著になっていることを指摘した近藤・田中（2013）、国際寮には社会教育的機能があることを明らかにした正宗（2015b）、教育寮としての混住寮を提唱している吉田（2015）、「京都国際学生の家」の設立理念と運営の仕組みについて語っている内海（2015）、シェアハウス型混住寮に関する報告をしている志村（2016）、短期留学生の大学寮の活用をソーシャル・ネットワーク形成という切り口で論じている山川（2016）、民間宿舎の現状を述べた姜・荻野・笠（2016）、慶應義塾大学の留学生寮の報告をした友岡（2016）、先導的な混住寮を有する大学に対する事例を調査し、「居室と共有部分の空間構成」と「RAなどを活用した運営上の工夫」の2つの観点から混住寮の特徴を明らかにした吉田・田中・飯田（2016）がある。

このほかに、国際寮をグローバル人材育成の場として捉えた牧田（2013）、人材育成機

能を備えた学生寮には大学側の活用戦略と運営力が必要であるとする望月（2013）、サマープログラム参加外国人学生について借り上げ宿舎とホームステイとでは生活満足度や異文化理解度に違いがあるかを検証した近藤（2017）、豊橋技術科学大学のシェアハウス型混住宿舎について報告した蒲原（2017）、民間の立場から留学生の住環境向上に関する提言を行っている後藤（2017）などが存在する。

2000年代前半の研究では、広島地区の全留学生を対象とした調査結果を分析した玉岡（2004）が挙げられる。玉岡（2004）は、自由度の高い民間アパートに住んでいる留学生のほうが公営住宅や留学生宿舎よりも有意に満足度が高い、という興味深い結果を示している。同時期の事例報告には、民間公益団体が運営するアジア文化会館などの問題を指摘した工藤（2004）、愛知県内の財団法人による留学生宿舎提供事業を紹介した出口（2004）、東北大学の留学生宿舎への対応を紹介した藤咲（2004）、拓殖大学の留学生宿舎の現状と課題について述べた山口（2004）がある。アジア文化会館による留学生支援を論じた佃（2008）、特定非営利活動法人による住宅支援を報告した木下（2010）がある。

また、前出の正宗（2015b）は、「文化的背景が異なる者同士が同じ空間を共有するだけでは良好な関係が実現しないことも多くの研究で指摘されている（p. 2）。」と主張している。吉田（2015）は、自らの体験を踏まえて「（混住寮は）専門的なスタッフの介入のもと、適切に寮を運営する体制を整える事が重要であると痛感した（p. 10）。」と述べ、望月（2013）は、「大学側が学生寮を運営する力が問われている（p. 29）」と述べている。これらの先行研究に共通する考えは、単に混住寮を提供すれば良いということではなく、大学側がその設置目的を明確化し、且つ、効果的な運営を行わなければならない、としている点にある。

宇塚・岡・藤本（2017）は、過去17年5か月間に岡山大学留学生相談室に持ち込まれた住居領域関連事案264件を①民間住宅、②岡山大学宿舎、③その他に整理し、分析している。民間住宅に関わる事案129件中、最も多かったのが家主・不動産屋とのトラブルで44件発生した。大学宿舎に関わる事案128件の中で最も多かったのが居住環境・施設・備品への苦情31件であるが、最も古くて住環境に問題のあった桑の木留学生宿舎北棟が改修されたことでこうした苦情はほぼなくなった。また、大学宿舎や民間住宅で発生した隣人との騒音トラブル、不審者の付きまといなどの深刻な問題の発生にも言及している。

2.2 本研究の意義

宇塚・岡・藤本（2017）では、本学に在籍する留学生が直面した大学宿舎や民間住宅などに関わる事案について解明した。本稿では、岡山大学の留学生宿舎を単なる居住施設としてではなく、教育資源として捉え、効果的に活用する方策を探ってみたい。

前節で紹介したとおり、留学生の住居関連領域に関する先行研究は、歴史が浅く、数もあまり多くない。文部科学省（2014）は、「外国人留学生の住環境を整備するに当たっては、外国人留学生と我が国の学生等や地域住民とが交流する機会を創出することが重要である

(p. 2)。」と述べており、留学生の住環境の整備を日本人学生及び地域の国際化の進展に供するものとして位置づけている。また、吉田・田中・飯田(2016)が指摘しているように、混住寮がグローバル人材を育成する場として注目を集めている理由は、2014年度に始まった「スーパーグローバル大学創成支援事業(SGU)」の採用基準の一つに混住寮の有無があったことに求められる。

4つの異なるタイプの留学生宿舎を有する岡山大学において、収容定員が最も大きく、RA制度が導入されてから4年が経過した桑の木寮に焦点を絞って、その効果的な運営を模索し、教育資源としての活用を再検討することには大きな意義がある。本稿では、先ず1999年度から2013年度にかけての桑の木寮の問題について述べ、次に2014年度以降の新たな問題について、RAを対象としたアンケート調査結果を踏まえて明らかにし、最後に今後の留学生寮のあり方に関して提言する。

3. 桑の木寮の問題点：RA制度の導入まで

2014年秋のRA導入以前に桑の木寮において発生した大きな問題は次の4点である。

①2000年から2002年度12月：ガスコンロや洗濯機を部外者が使用

2000年度から2002年度にかけて、入居者ではない多数の中国人留学生が共同炊事室で長時間たむろしているので入居者が炊事できない、シンクで下着を洗濯する、大声で騒ぐ、或いは洗濯機を深夜まで占拠している、といった6件の苦情が留学生相談室に持ち込まれた。ガス代や水道代が入居者の頭割りとなっていたため、部外者が「ただ乗り」していた。これにより、2003年1月から桑の木寮北棟の共同炊事室のガスを有料コイン式に、また洗濯機も有料コイン式に変更した。

②2005年度まで：室内清掃について

退居日時が平日の夜或いは土日の場合、管理人が立ち会うことができない上に、当時は管理人による事後の点検・清掃もなされなかった。2005年度までに「室内が汚くゴミが散乱している、室内にゴキブリが大量にいる、室内の備品が壊れている」といった11件の苦情が寄せられた。これを受けて、2006年度から退居後の室内の清掃を業者に委託するようになり、それ以降この種の苦情はなくなった。

③2012年度まで：インターネット環境

2012年度までに「居室内でインターネットを利用したい」との要望が8件あった。インターネット利用環境が整備されるまでは、留学生相談室で「留学生会館の自室でインターネットを使いたい人」と題するお知らせを作成し、希望者に配布していた⁽¹⁾。2012年度後半に桑の木寮北棟の耐震構造への改修工事が行われた際に、南棟も含めてインターネット利用環境が整備された。

④1999年度後期～2014年度前期：不審者の出没

主として管理人が不在である平日の夜間、或いは休日に不審者が出入りし、入居者であ

る留学生から苦情があったため、留学生相談室はこの期間内に 17 件の事案に対応した。不審者は、異性の留学生に接触を図るタイプとカルト系宗教団体の幹部で各種イベント等への参加を理由に宗教活動への勧誘を行うタイプとに分けられる。これらのケースに関しては、岡（2016）を参照願いたい。

以上の 4 点のほかにも、深夜、急病人が出る（複数回）、酔った入居者が玄関扉のガラスを割る（3 回）、防犯カメラを破壊する、騒音トラブルがエスカレートする、火災報知器をパンチして作動させる、消火器を蹴り倒す、等々が原因で消防車、救急車、パトカーが駆けつける、といった事件も時折発生した。

4. 桑の木寮へのレジデントアシスタント（RA）の配置

4.1 レジデントアシスタント（RA）配置に至るまでの経緯

宇塚・岡・藤本（2017）で述べたとおり、留学生宿舎でパトカー、救急車、消防車が駆けつけるような問題、或いは不審者の出入りは、平日の夜間或いは休日といった管理人不在の時間帯であることが多い。このため、留学生相談室は 2001 年度以降数度に渡って留学生課（当時）に対して、①夫婦住み込みの管理人の配置、或いは②各階に 1 人日本人学生を RA として入居させることを提案したが、①守衛業務の外注に伴う守衛（定員内職員）の管理人への配置替え、及び②入居者は留学生に限るとする入居規則に阻まれ⁽²⁾、いずれも実現しなかった。次善の策として、警備会社のセキュリティシステムが導入され、監視カメラが設置されたが、十分な危機管理体制であるとは言い難い状況であった。

しかし、2014 年春から RA 待望の声が高まると同時に、前述の通り文部科学省が留学生 30 万人計画推進の一環として、留学生の住環境整備のあり方を示し、留学生と日本人学生の混住寮を推奨する方針を打ち出したことが大きな後押しとなって、2014 年 10 月に桑の木寮の各階に 1 人ずつ日本人学生を RA として入居させることが実現した。

RA 制度導入前は、RA の人数分だけ入居できなくなる留学生がでてくるので結果としては留学生が不利益を被る、岡山大学では前例がないので謝金が扱えない、などの反対意見も強かった。導入が決まった後も、RA 学生の選抜するための準備や募集に時間がかり、労務管理など事務的な手続きが滞ることもあった。RA 学生の間でも、業務に対する理解に差があり、寮内で起こったそれぞれの課題に対して、RA としてどのように対応し、寮内自治を進めていけばよいか思案することも多く、学生と教職員が一緒になって、それまで表面化されていなかったものも含めて、大小様々な寮内の問題に根気よく取り組む姿勢が必要とされた。

4.2 レジデントアシスタント（RA）の配置方針

(1) RA の職務

RA は桑の木寮で留学生と一緒に生活を送りながら、寮生活が円滑に行われるように寮の

自治や管理の補助を担うことを目的に配置された。具体的な業務としては、1) 留学生（寮生）への生活上のサポート 2) 寮で起こる日常的なトラブルの対応 3) 寮生オリエンテーションや交流イベントの企画・運営 4) 緊急時の初期対応、及び教職員との連絡係、などである。また、岡山大学固有の業務としては、管理人不在の夜8時から10時に毎日（含週末）設置されるRAヘルプデスクの担当、6月及び12月に行われる掃除キャンペーンの運営なども含まれていた。さらに、入居後にはRAからも環境改善に向けて提案が上げられ、ゴミ出しや共有スペースの使用などの注意喚起のポスター作成、自転車登録証管理、不用品マーケット、自習室運営、卓球台の購入とスポーツ奨励、野菜づくり、桑の木寮Tシャツ作成などの業務が新たに加わった。いずれも留学生と一緒に住んでいる学生目線からの提案が多く、大学はできるだけ学生の自主性と意見を尊重する形でRA学生をサポートしてきた。

（2）RAの選考や待遇など

RAは、最初に8名配置した2014年10月を除いて、毎年、年度末と夏に欠員募集を行ってきた。理由は、3月末の卒業や留学で退寮する学生が数名いたためである。RA応募の条件としては、1) 半年以上岡山大学に在籍している、2) 日常会話程度以上の英語（または中国語）及び日本語コミュニケーション能力を有する、3) RAとしての責任感や行動力がある 4) 明るく、ボランティア精神や向上心がある、5) 異文化を理解・尊重しようという柔軟な姿勢を持ちつつ、他人に流されない勇気を持っている、6) RAを行うに当たり、時間的余裕がある、7) 模範的な学生である、などである。しかし、入寮時に上記の全ての条件を完璧に兼ねそなえている必要はなく、3)～7)については、日々自覚して、努力する姿勢があるかどうかを重視した。初回の2014年10月は、新規応募した学生が定員8名と同数であったため、応募学生全員を採用した。次回の2015年4月以降からは欠員募集となり、常に応募者が募集人数を上回る結果となった。選考方法は、応募者の成績や志望動機などを記した書類審査に加え、担当教職員や現役RAの代表数名による面接審査を基に、上記の条件や学年などのバランスが考慮された。任期は、半年ごとの更新制で、最長3年、待遇は家賃相当額のRA謝金が支給されるが、水道光熱費は自己負担となっている。

RAを配置したことによる大きな変化は寮の中での様子が徐々に分かってきたことである。それまでは、管理人不在の平日5時以降、週末、早朝など寮の日常は話題に上ることはなく、騒音、器物破損、寮生同士のトラブル、不審者の出没、ゴミ出し違反など問題が起こった時のみ注目が集まったので、寮に対するイメージはネガティブであった。しかし、RAが入居しヘルプデスクが毎夜始まると、留学生達がヘルプデスクに立ち寄り、勤務時間外のRAもデスクにやってきましたりして、寮内の学生同士の日常的な会話が始まり、留学生はより多くの生活情報を手に入れることができるようになった。また、RAも留学生の色々な声を聞いて、その価値観や行動パターンに触れ、自分たちと留学生の住環境を良

くしたい、と工夫を凝らすようになった。寮の入り口を季節に合わせて家庭的な雰囲気装飾したり、聞かれる前に生活に役立つような資料を収集するなどヘルプデスクの機能を充実させたりした。また、若くてフットワークがよく、留学生とコミュニケーションが上手にとれる RA の存在は、寮の管理人からも大いに頼りにされ、寮内に目に見える形で新しい風を吹かせた。

(1) RA による新たな活動：入寮時

桑の木寮では、4月と10月におおよそ半数の寮生が新たに入居する。そこで、入寮時の4月と10月を Welcome Month と位置づけ、留学生が寮生活に早く馴染んで、順調に留学生活がスタートできるようにいくつかのサポート業務を行った。管理人や入寮案内係とは別に臨時のヘルプデスクを設置し、挨拶をしたり、荷物を運んだり、買い物の相談にのったり、書類の記入を手伝ったりと来日当初の多忙で落ち着かない時期にじっくりと留学生の話し相手になり、関係構築に努めた。毎週土曜日の朝10時には Donuts Saturday を開催し、コーヒーやドーナツを囲んで寮生同士で交流する他、寮の規則を分かりやすくスライドや実演で説明した入寮オリエンテーションも開催した。

(2) RA による新たな活動：退寮時

退寮時が帰国と重なる交換留学生は特に、急に多忙になり、支払やその他手続きが分からず右往左往し、時間が足りなくなってゴミの処理や掃除を中途半端にして帰国するケースが少なくなかった。そうした留学生やその後始末に忙殺される管理人の大変さを見ていた RA 達は、退寮が始まる約1か月前に退寮オリエンテーションを企画開催した。その結果、退寮や帰国の手続きについて留学生が余裕をもって準備ができるようになった。同時に、より身近な RA に帰国準備に関わる問い合わせをするようになり、管理人や大学事務の省力化が実現した。さらに、ヘルプデスクでは、不用品やゴミの仕分けや時間外ゴミ出しをサポートし、再利用できるものはリサイクルとして引き取って保管することで、ゴミを部屋や廊下に放置して帰る学生が大幅に減った。さらに、寮の管理面だけでなく、土産の購入、海外郵送の方法、帰国前の旅行の計画づくりを手伝い、帰国日の朝には近くのバス停まで見送るなど、RA は友人として留学生に接することも多かったことが後述のアンケートからも読み取れる。

(3) RA による新たな活動：通常の寮生活

RA 学生と大学教職員は月に一度の月例ミーティングを通して、年間の活動や伝達事項、相互の情報交換を行っているが、それ以外に RA 学生同士で自主的に毎週ミーティング開き、情報交換や日常的に起こる問題や新しいイベントについて議論している。その中から、放置自転車をなくすための自転車登録の管理、映画鑑賞会やスポーツ、たこ焼きパーティなどの交流イベント、菜園づくり、掃除キャンペーンの運営と定着化、自習室の開催、卓球台の購入などいろいろなアイデアが生まれた。8人の RA の専攻や学年は文系、理系、学部生、大学院生と多様で、趣味や興味も異なるため、それぞれが得意なことを持ち寄って

月に一回の程度のイベントを企画・運営している。寮生である彼らにとっては友達と一緒に何かをすることは自然なことであり、企画を Facebook やポスターで告知をして参加者を募り、開催する、という流れであった。大学が依頼するイベントとは違い、参加人数や予算、教育的意義などに縛られることなく、自由にイベントを企画できるため、寮内での活動は活発になり、留学生と日本人学生の相互理解が深まった。

ただし、このような運営方式では定着化しないイベントもあり、推進していた RA や留学生が変わることによって自然消滅してしまったものとして、書道教室やズンバクラスなどがあげられる。

5. レジデントアシスタントに対するアンケート調査結果

5.1 調査概要

2014年10月から2018年3月現在までに13名のRA学生が卒業して岡山大学を離れたが、そのうち、半年以上RAを務めた9名の学生にRAの終了時にアンケートを依頼し、7名から回答があった。7名の内訳は、学部4年生3名、大学院2年生4名、男子5名、女子2名である。アンケート内容は、主に1) RAを志望した動機、2) RAの仕事について 3) RAの経験から得たものの3つに分類できる。

5.2 調査結果

(1) RAを志望した理由（複数回答形式）

表1によると、RAを志望した理由で多かったのは、「英語力の維持・向上」「留学生と交流したい」「家賃が無料になる」が大半を占め、その他、「新しいことに挑戦したい」「留学経験を活かしたい」「留学生をサポートしたい」「先生・友人などに勧められた」というのがそれぞれ1~2名だった。

桑の木寮の家賃は2万円未満で周辺のアパートと比べても格安である。その分、部屋が狭く施設も古いが、学生にとっては経済面でのインセンティブが大きいことがわかる。また、「留学生」あるいは「留学」も志望理由のキーワードになっている。留学直後や学生生活に物足りなさを感じていて、友人や教員の勧めに興味を持ったという学生が複数いたことも興味深い。

表1 RAを志望した理由（満点7）

英語力の維持・向上のため	6
留学生との交流したい	5
家賃が無料だから	4
新しいことに挑戦してみたい	3

自分も留学中に RA に助けもらったので、お返しをしたい	2
留学の経験はないが、留学生をサポートしたい	2
友人に勧められた	2
先生に勧められた	2
特にやりたいことがなかったので思いづくりに	1
寮生活をしてみたかった	1
留学などの資金づくりのため	1
留学生の友達をつくりたかった	1

(2) RA の仕事について

桑の木 RA ヘルプデスクは、寮玄関の自動ドアの内側に設置し、自動販売機のあるロビーや 30 名～40 名収容可能な談話スペースに隣接しているため、学生が集まりやすい場所にある。そこでの対応は生活一般、寮規則、学業（日本語学習）、病気ケガ、その他多岐にわたっていることが図 1 より分かる。

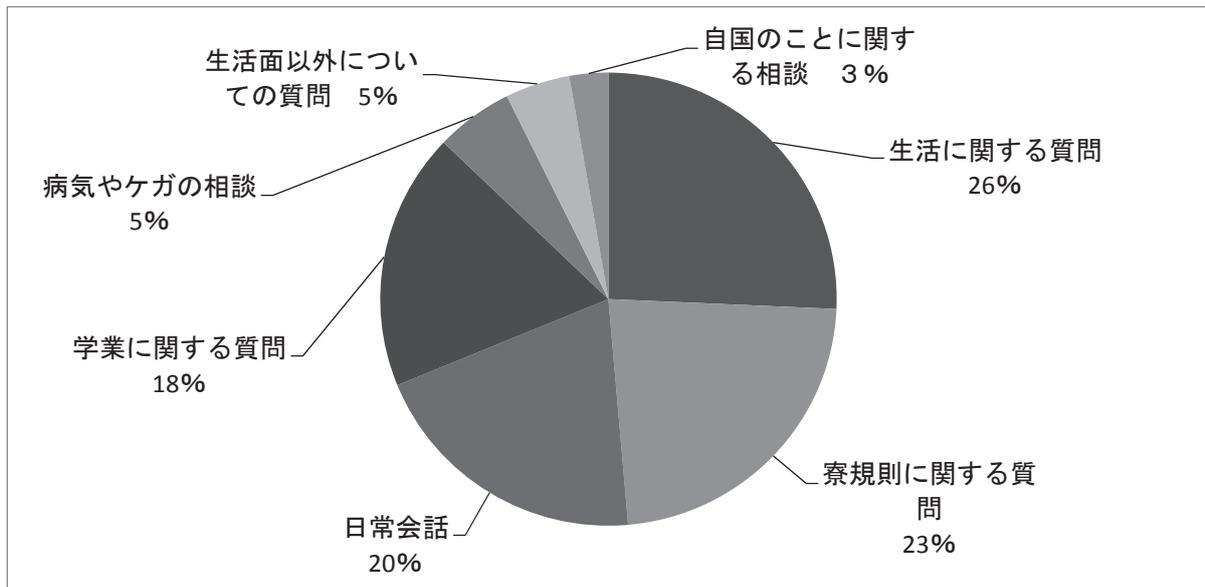


図 1 RA ヘルプデスクにおける相談内容と割合

RA の仕事量については、6 点満点中、平均 5.3 点でほとんどの学生が「仕事量が多い」と感じていた。また仕事の難しさについても平均点 4.5 点（6 点満点）と回答しているが、その理由としては「その場ですぐ判断しないとイケない」「その場ではすぐに決められない」事態が発生すること、留学生とのコミュニケーションや関係づくりの難しさを実感していることが分かる。

表 2 RA 業務が難しいと感じた理由 (満点 30 点)

その場で判断しなくてはいけない	22	コミュニケーションをとるのが難しい	11
すぐ対応できないことがある	17	留学生と信頼関係を作るのが難しい	8
時間の確保が難しい	15	留学生が部屋に引きこもる	5
言葉の壁がある	15		

また、RA 業務のやりがいについては、5.4 点 (同) と高得点がつき、記述式の回答でも「RA を友人に勧めるか」「もう一年在学するとしたら RA を続けるか」という質問には全員が「はい (Yes)」と回答している。

表 3 やりがいを感じた業務 (満点 30 点)

ヘルプデスク	28	月例ミーティング	6
RA 主催のイベント	16	掃除キャンペーン	5
夜間緊急時の対応	10	ごみ出し指導・サポート	4
入寮サポート	10	RA ミーティング	3
入寮オリエンテーション	7	サタディドーナツ	2
退寮オリエンテーション	7	ドネーション物品管理	1
デスク時間外での対応	7	鍵の管理	1

表 4 特に負担を感じなかった業務 (満点 30 点)

サタディドーナツ	16	退寮オリエンテーション	5
鍵の管理	12	デスク時間外での対応	5
ヘルプデスク	11	RA ミーティング	5

上記図 1、表 3、表 4 より、RA の多くが毎晩のヘルプデスクを通して留学生と交流したり、様々な質問や相談に答えたりしていることに、大きなやりがいを感じていることが見受けられる。その他、RA が主催するイベントだけでなく、夜間緊急時の病気や事故などの対応、入寮や退寮時のオリエンテーション、ヘルプ時間外での対応など半数以上の学生がやりがいを感じた、と回答している。また、新入居者歓迎のサタディドーナツに関しては、それほど負担に感じなかった、という学生が 3 名ほどいた。このイベントは、4 月と 10 月の毎週土曜日の朝 9 時から準備を要し、イベントは約 2 時間、終了後は 1 時間半ほど片付けに時間がかかる。それでも、負担に思わない理由としては、イベントがルーチン化していて学生も心理的な負担が少なかったことと、RA 学生自身も新入生との初めての交流を楽

しんで行っていたことが推測できる。質問票の中で、上記のやりがいを感じた業務と特に負担に感じなかった業務の選択肢は、まったく同じに設定してあったが、やりがいを感じた業務の項目にはすべて得点が付くと同時に、点数自体も高かった。こうした回答から、RA 業務はやりがいの多い反面、負担を感じることもあった、という状況が推測される。日本人学生にとって、留学生と共に生活し理解することだけでも難しさがあることは容易に想像できる。そのうえで、リーダー的役割を担いながら言語や文化背景の多様な留学生達をサポートしていくことに難しさを感じるのは、学生達が RA 業務に誠実に取り組んでいる証拠でもあろう。また、やりがいの高さから RA は通常の学生生活では経験できないことも多く、留学生や管理人から感謝の声を聞くなど、直接的にポジティブな反応が返ってきていることが伺える。

(3) RA の経験を通して得たもの

RA 業務を通して向上あるいは身についたスキルとしては、柔軟性、コミュニケーション能力、問題解決力、異文化理解力、リーダーシップが挙げられた。回答者全員が 5 つ以上のスキルが上達、身についたと回答していたが、その中でも、ほとんどすべてのスキルの項目に印をつけている学生が半数以上いた。

表 5 RA 業務を通して身についた、向上したスキル (満点 30 点)

柔軟性	14	日本語	9	プレゼン力	6
異文化理解力	14	チームワーク	8	自己管理能力	3
問題解決力	10	外国語	8	指導力	3
コミュニケーション	11	忍耐力	8	計画性	2
企画運営能力	10	説得	7	ボランティア精神	2
リーダーシップ	9	判断力	6	自己 PR	2
事務能力	9	ユーモアセンス	6	交渉力	1

そして、全員の学生が、RA を務めて「上記のスキルが向上または身についた」「人間的に成長した」「日本人・留学生の友人ができた」としている。他にも、就職活動でアピールできた、自分に自信がついた、など RA を務めた自分自身について肯定的な自己評価がなされている。

その一方で、「周りに刺激されて、成績が上がった」に回答する学生はいなかったことは、RA 業務が学業成績に直結する性質のものではなく、あくまでも異文化理解力、問題解決能力、コミュニケーション力、企画運営能力といった、グローバル人材としての資質向上に寄与する性質のものであることを示唆している。

表 6 RA を務めてよかったこと (満点 30 点)

スキルが身に着いた	22	留学生に頼りにされていると実感できた	4
人間的に成長した	22	他人に感謝するようになった	4
日本人の友人ができた	14	積極的になった	4
留学生の友人ができた	10	打ち込むものができた	4
就職に有利だった	9	偏見がなくなった	4
自信がついた	8	嫌いな人にも対応できるようになった	3
自分自身を知ることができた	5	自分の意見を言えるようになった	1

最後に RA を務めてマイナスになったことについては、時間がない、寮生の言動に対して注意するようになった、責任感のない人を軽蔑してしまう、などが上がった。日本人は一般的に海外で無防備になり、軽犯罪の被害にあったりすることを考慮すれば、人のよい RA 学生が国際標準の注意力を身につけたともいえるが、この項目でも RA 業務に時間を取られたこと、責任感や緊張感をもって RA を務めたことが伺える。

表 7 RA を務めてマイナスだったこと (満点 30 点)

時間がなくなる	17	性格がすさんだ	4
留学生と気軽につきあえなくなった	12	日本人の言葉を簡単に信用しないようになった	2
留学生の言葉を簡単に信用しないようになった	9	外出が減った	2
責任感のない人を軽蔑してしまう	6	留学生の欠点が目につくようになった	1
他の RA とつきあうことが多くなった	5		

5.2 調査結果と考察

RA を配置した 2014 年の秋には、RA より先に寮に入居していた留学生から、日本人学生が新たに留学生だけの寮に入居したことについて、「寮の雰囲気が見違えるように楽しくなった、やっと気軽に話せる日本人の友達ができた、自分たちは本当にラッキーだった」という声が聞かれた。また、志半ばで帰国したある留学生は「研究室ではいろいろ大変だったが、桑の木 RA 学生は、本当に親身になって私の話を聞いてくれた。この良い思い出をもって祖国に帰りたい」と語っていた。

このアンケート調査から RA 学生は、寮内で起こる大小様々な問題を経験したことで、その場面毎にあわせて臨機応変に対応する柔軟性やコミュニケーションスキルが培われ、人間的に成長できたと実感していることが明らかになった。このことは、国際寮がグローバル人材育成の場とする牧田(2013)の主張を裏付けている。

また、筆者の一人である宇塚は、月例ミーティングや入退寮時の活動など大学から依頼

した RA 活動の助言・指導に加えて、時間外でも RA 学生が判断に迷い、困ったときにはすぐに筆者と連絡を取ることができるようなサポート態勢をとってきた。過去 4 年間で実際に、RA がその場の判断に困って、筆者の即答を要する事例はほとんどなかったが、救急車の手配などの初期対応が終わった後の報告や緊急を要しない相談、問い合わせ等は時々、休日の昼間や平日の夜 10 時前までの時間帯に LINE を通じて行われた。RA 配置 1 年目は RA 学生達も RA の立場や役割に戸惑うことが多く、ミーティングでも RA の業務範囲や留学生と上手にコミュニケーションをとる方法など実際のケースに即した質問が多く、筆者とともに活発な議論がもたれたが、学生指導の方針は、「寮生を一番よく知る RA が自ら問題提起し、RA を含めた寮生のためにその時点での最良な解決策を考えて大学側に提案する」というものだった。このような RA 配置と活動の成果として、1 年半から 2 年後には掃除キャンペーンやゴミや不用品リサイクル（ドネーション）などのシステムも徐々に確立し、共有スペースを活用するためのルールづくりや鍵の管理なども任せられるようになった。RA の指導は主に教員である筆者が担当したため、全学生が出席できるよう授業時間外に設定したことも効果的な指導ができた理由の一つであろう。

前述の吉田（2015）、望月（2013）、その他多くの研究者が述べているように、寮を運営する際の学生指導・支援の重要性を岡山大学でも実感した。

6. 今後の課題

現在の岡山大学の国際寮の問題は、5 年前のゴミ分別、掃除、家賃滞納、規則違反、寮生のもめごと、不審者出没などの留学生や外部者を発端とするものから、日本人学生の面接やリクルートに関連する業務量の増加や彼らへの指導・助言の在り方に変わりつつある。その背後には、ごみの捨て方や規則違反、迷惑行為といった従来型の問題の比重は小さくなり、問題を解決できるような責任ある日本人学生の育成・指導、あるいは、1、2 年で入れ替わる日本人学生のリーダーシップスキルや責任感をどのように後輩に引き継いでいくか、という新たな点に焦点が動いている、という現実がある。日本人学生が一人ひとりの個性やスキルを活かして、国際寮でリーダー的役割を果たせるようになるには、指導側の力量が求められる。特に、責任感やスキルのある先輩学生が卒業して新しい下級生に代わることにより、一時的に RA のスキルや結束力が弱くなる時はなおさら、指導する教員と寮を管理する職員両方の忍耐力や教育力が試される時でもあり、何より、寮を教育の資源として活用する、という大学の明確なビジョンと推進力が最も必要となる時である。しかし、日常業務に追われている教職員には教育的資源としての国際寮の意義を吟味している余裕はなく、マネジメント的な側面から見ると、大学のグローバル化における様々な課題の中で、寮の運営は注目を浴びない地味な存在ともいえる。

7. 結び

現在、桑の木寮の RA 配置から 4 年半、国際シェアハウスが開設してから 2 年半が経過しようとしている。寮の担当職員は毎年のように変わり、担当教員である筆者（宇塚）も学内他部局へ異動することが決まった。それと同時に、学内の財務処理上の考え方も変わり、寮収入を利用して手間のかかる寮の管理を外注化する方針が検討されている。課題で述べたように大学で寮を運営するには手間とコストがかかる。その一方で、教育的資源として活用できれば、海外留学させるより格段に廉価でリスクが少なく、学生は国際理解力やグローバルな環境での適応性、リーダーシップなどを磨くことができるという大きな可能性を秘めているのが国際寮である。

海外協定校の交換留学担当教職員にとって、受入留学生が混住寮で日本人学生と一緒に生活できる、ということは大きな魅力となる。それは、せっかく日本に留学にきたのにもすれば留学生だけで固まってしまうがちな学生の特性を担当者がよく知っているからであろう。日本人と友達になりたい、日本語が上手になりたい、と思っても留学生対象の授業と留学生寮の往復では難しい。その一方で、日本人学生にとっても留学生と生活を共にするというのは、表面的な友好関係だけでは済まない、多文化的価値観や習慣の中で留学生と本音の付き合いをしないといけない、といった貴重な体験をする機会となる。それが新たな挑戦となって成長していく学生も、逆に反発や委縮してしまう学生もいるだろう。いずれにせよ、教育的資源活用には他の教育現場と同様に、学生に寄り添った指導・支援が必要とされる。

スーパーグローバル大学として混住寮推進の第一段階を終わった本学では、今後の国際寮の意義とその在り方について、これまでの教育的資源の活用から、運営簡素化とリソースの集約化への転換期に来ている。しかし、それについて教育的立場から十分な検討がなされているかは不明である。

* 岡山大学名誉教授

注

- (1) 桑の木留学生宿舎は、2011 年 3 月までは「岡山大学外国人留学生・研究員宿泊施設」という名称であり、収容定員 150 人のうち、留学生が 132 人、研究員が 18 人であったが、2011 年 4 月に国際交流会館が竣工したことに伴い、全室を留学生用とし、「桑の木留学生宿舎」に改称した。
- (2) お知らせは、日本語・英語・中国語の 3 か国語で作成し、①モデムスプリッターを購入し、自分で室内のインターネット接続工事をする場合、②NTT に室内のインターネット接続工事を依頼する場合の費用及び月額基本料金などを明記した。
- (3) 日本人学生 RA8 人の配置は無理と判断した当時の留学生宿舎担当事務職員は、北棟・南棟に 1 人ずつ RA を配置する提案書を上司に提出したが、入居規則を理由に却下された。

引用文献

- 出口豊 (2004) 「宿舎提供事業からみる留学生への生活支援」『留学交流』2004年7月号, pp. 10-13.
- 藤咲仁一 (2004) 「東北大学における最近の留学生宿舎の対応」『留学交流』2004年7月号, pp. 14-17.
- 後藤裕幸 (2017) 「増え続ける外国人留学生の住環境問題、課題の解決―大学と提携することで、教職員の負担を軽減、留学生の生活環境を向上させる―」『留学交流』2017年9月号, pp. 40-45.
http://www.jasso.go.jp/ryugaku/related/kouryu/2017_icsFiles/afieldfile/2017/09/07/201709gotohiroyuki.pdf (2017年9月18日閲覧)
- 蒲原弘継 (2017) 「TUT グローバルハウスでの生活を通じた学びとつながり」『留学交流』2017年9月号, pp. 33-39.
http://www.jasso.go.jp/ryugaku/related/kouryu/2017_icsFiles/afieldfile/2017/09/07/201709kamaharahirotsugu.pdf (2017年9月18日閲覧)
- 木下和弘 (2010) 「“特定非営利活動法人国際下宿屋”の取組」『留学交流』2010年4月号, pp. 18-21.
- 近藤佐知彦 (2017) 「現代のホームステイのあり方に関する一考察―宿舎は留学生の学習・異文化理解を担えるか―」『留学交流』2017年9月号, pp. 12-32.
http://www.jasso.go.jp/ryugaku/related/kouryu/2017_icsFiles/afieldfile/2017/09/07/201709kondosachihiko.pdf (2017年9月18日閲覧)
- 近藤佐知彦・田中希穂 (2013) 「混住の教育効果および民間資金・資源の活用―留学生宿舎整備に関する聞き取りから―」『留学生交流・指導研究』Vol. 15, pp. 65-76.
- 工藤正司 (2004) 「留学生宿舎の進化と退化」『留学交流』2004年7月号, pp. 6-9.
- 姜益俊・荻野政男・笠清太 (2016) 「日本国内における外国人留学生の民間宿舎の現状やその選択―留学生が好む、留学生に必要な部屋とは―」『留学交流』2016年9月号, pp. 21-29.
http://www.jasso.go.jp/ryugaku/related/kouryu/2016/_icsFiles/afieldfile/2016/09 (2017年8月31日閲覧)
- 牧田綾子 (2013) 「グローバル人材育成の場としての“国際寮”」『リクルート カレッジマネジメント』183, pp. 6-11.
http://souken.shingakunet.com/college_m/2013_RCM183_06.pdf
(2017年9月18日閲覧)
- 正宗鈴香 (2015a) 「寮生活における留学生の異文化社会適応、人格形成、言語習得に関する事例研究―国際寮の教育的機能の可能性―」『麗澤大学紀要』第98巻, pp. 63-72.
- 正宗鈴香 (2015b) 「グローバル人材の育成を意識した国際寮の活用―国際寮の社会的機能

から導かれる寮教育」『留学交流』2015年9月号, pp.1-8.

http://www.jasso.go.jp/ryugaku/related/kouryu/2015/_icsFiles/afieldfile/2015/11 (2017年8月31日閲覧)

望月由起 (2013)「学生寮の機能多様化と大学のストラテジー」『リクルート カレッジマネジメント』183, pp.24-29.

http://souken.shingakunet.com/college_m/2013_RCM183_24.pdf
(2017年9月18日閲覧)

文部科学省 (2014)『留学生30万人計画の実現に向けた留学生の住環境支援の在り方に関する検討会 報告書』(平成26年7月31日)

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/26/08/_icsFiles/afieldfile/2014/08/29/13
(2017年9月12日閲覧)

岡益巳 (2016)「岡山大学に在籍する留学生が遭遇した好ましくない人物・団体－留学生相談室が関与したケース－」『広島大学国際センター紀要』第6号, pp.21-34.

岡益巳・石田聡子・中島嘉子・廣田陽子 (2013)『2012年度留学生相談室活動報告書』岡山大学国際センター留学生相談室

鈴木在乃 (2010)「国立大学における留学生宿舎整備の課題」『留学生交流・指導研究』Vol.12, pp.133-142.

鈴木在乃・河合淳子 (2012)「関西圏国立大学留学生の住環境実態調査」『留学生交流・指導研究』Vol.14, pp.87-98.

志村恵 (2015)「ハウスシェア型混住寮としての“先魁”」『留学交流』2015年9月号, pp.31-36.

http://www.jasso.go.jp/ryugaku/related/kouryu/2015/_icsFiles/afieldfile/2015/11 (2017年8月31日閲覧)

玉岡賀津雄 (2004)「これからの留学生宿舎を考える－広島地区の全留学生を対象とした調査データより－」『留学交流』2004年7月号, pp.2-5.

友岡賛 (2016)「慶應義塾における外国人ドミトリの近況」『留学交流』2016年9月号, pp.1-4.

http://www.jasso.go.jp/ryugaku/related/kouryu/2016/_icsFiles/afieldfile/2016/09 (2017年8月31日閲覧)

佃吉一 (2008)「アジア文化会館と留学生の生活支援」『留学交流』2008年4月号, pp.18-21.

内海博司 (2015)「外国人留学生の宿舎支援と“共同の生”－留学生と日本人学生の交流は対等の立場で－」『留学交流』2015年9月号, pp.24-30.

http://www.jasso.go.jp/ryugaku/related/kouryu/2015/_icsFiles/afieldfile/2015/11 (2017年8月31日閲覧)

宇塚万里子・岡益巳・藤本真澄 (2017)「岡山大学留学生相談室に持ち込まれた住居関連事案に関する実証的研究」『岡山大学全学教育・学生支援機構教育研究紀要』第2号,

pp. 15-34.

山口隆正 (2004) 「留学生宿舎の現状と課題」『留学交流』2004年7月号, pp. 18-21.

山川史 (2016) 「短期留学生の大学寮におけるソーシャル・ネットワーク形成―教育資源としての寮の活用―」『留学交流』2016年9月号, pp. 5-20.

http://www.jasso.go.jp/ryugaku/related/kouryu/2016/_icsFiles/afieldfile/2016/09 (2017年8月31日閲覧)

吉田千春 (2015) 「留学生宿舎から混住型学生宿舎へ―教育寮への転換に向けて―」『留学交流』2015年9月号, pp. 9-23.

http://www.jasso.go.jp/ryugaku/related/kouryu/2015/_icsFiles/afieldfile/2015/11 (2017年8月31日閲覧)

吉田千春・田中友章・飯田捷 (2016) 「混中型学生宿舎の計画と運営に関する研究―スーパーグローバル大学創成支援採択大学の先導的事例を対象として―」『住宅計研究報告会論集 11』日本建築学会第 11 回住宅計研究報告会 (2016)

資料：「RA アンケート調査」(抜粋)

1) RA に応募した動機は何ですか？(複数回答可)

1. 英語力維持・向上のため
2. 留学生と交流したい
3. 留学生と友達(知り合いに)なりたかった
4. 自分も留学して RA に助けてもらったので、留学生のサポートをした
5. 留学経験はないが、留学生のサポートをしたい
6. 寮生活がしてみたかった
7. 自宅をでたかった
8. 家賃が無料だから
9. 留学などの資金づくりのため
10. 将来、留学を考えているのでその予行練習のため
11. 留学したかったができなかったので、留学に似た体験を試してみたかった
12. 友人に勧められた
13. 先輩に勧められた
14. 先生に勧められた
15. 特にやりたいことがなかったので、思い出づくりに
16. 何か新しいことにチャレンジしてみたかった
17. その他()

2) 実際 RA を務めてみてどうでしたか？

仕事の量

6(大変多い) 5(多い) 4(普通) 3(やや少ない) 2(少ない) 1(わからない)

3) 留学生へのヘルプ・相談・助言などで多かったことは何ですか？ 多かったものに○をつけ、その中でも特に多かった5つの項目については、多い順に並べてください。

- A. 病気やケガなど B. 学業(宿題)に関すること C. 生活一般(手続き)
D. 寮生活(規則)に関して E. 友人関係の悩みや相談
F. 悩みなどではなく、友達としての会話 G. 日本や岡山に関する情報
H. 自国の友人・家族に関して I. 留学後の進路について J. その他()
=> => => =>

4) RA の仕事の難しさについて

6(大変難しい) 5(難しい) 4(普通) 3(やや簡単) 2(簡単) 1(わからない)

5) RA の仕事の中で難しいと思ったことはどんな点ですか？ 難しいと感じたものに全て○をつけてください。その中で、特に難しいと思った5つを選び、順に並べてください。

- A. 留学生とのコミュニケーションがとれない B. 言葉が通じない
C. その場で判断できないことがある
D. すぐに対応しなくてはいけないことがある E. 留学生が引きこもる
F. 留学生と信頼関係を築くのが難しい G. 他の RA と信頼関係を築くのが難しい
H. 時間を確保するのが難しい I. その他()
=> => => =>

6) RA の仕事の中で比較的簡単だ(負担に思わなかった)と思ったことは何ですか？ 簡単だと思ったことに全てに○をつけ、その中で特に簡単と感じたものを5つ選び、簡単な順に並べてください。

- A. 入寮の手伝い B. 入寮オリエンテーション C. サタデイドーナツ
D. ヘルプデスク E. RA 主催のイベント()
F. 夜間・緊急時の対応 G. おそうじキャンペーン H. ゴミの処理
I. 退寮オリエン J. ドネーションの管理 K. 鍵の管理
L. RA ミーティング M. 月例ミーティング
N. ヘルプ時間以外のサポート O. その他()
=> => => =>

7) RA の仕事の中にやりがいを感じましたか？

6(強く感じた) 5(やや感じた) 4(普通) 3(やや感じない) 2(あまり感じない) 1(わからない)

8) RA の仕事の中でやりがいを感じたことは何ですか？やりがいを感じたこと全てに○をつけ、その中で、特にやりがいを感じたものを5つ選び、感じた順に並べてください。

- A. 入寮の手伝い B. 入寮オリエンテーション C. サタデイドーナツ
 D. ヘルプデスク E. RA 主催のイベント()
 F. 夜間・緊急時の対応 G. おそうじキャンペーン H. ゴミの処理
 I. 退寮オリエン J. ドネーションの管理 K. 鍵の管理
 L. RA ミーティング M. 月例ミーティング
 N. ヘルプ時間以外のサポート O. その他()
 => => => =>

9) RA を務めて身についた・向上したスキルは何ですか？身についたスキル全てに○をし、その中で特に身につけてよかったスキル5つ選び、よかった順に並べてください。

- A. 語学力(英語・その他) B. 日本語力 C. コミュニケーション能力
 D. 説得力 E. 自己 PR 力 F. プレゼンテーション能力
 G. リーダーシップ H. チームワーク力 I. 異(多)文化理解力
 J. 忍耐力 K. 柔軟性 L. イベント計画・運営能力
 M. ボランティア精神 N. 自己管理能力 O. 問題解決能力
 P. 計画性 R. 判断力(臨機応変に) S. 事務能力
 T. ユーモアのセンス U. 指導力 V.その他()
 => => => =>

10) RA を務めてよかったと思うことは何ですか？ よかったと思うこと全てに○をし、その中で特によかったと思うことを5つ選び、よかった順に並べてください。

- A. 13)のようなスキルが身についた B. 留学生に対する偏見がなくなった。
 C. 留学生の友達ができた D. 日本人の友達ができた
 E. 自分の意見がきちんと言えるようになった F. 嫌いな人への対応力がついた
 G. 他のことにも以前より積極的に取り組むようになった
 H. 大学生活で打ち込むものができた
 I. 周りの人に刺激されて、成績が上がった(学業にもやる気がでた)
 J. 就職に有利になった K. 人間的に成長した
 L. 留学生に頼りにされていると実感できた M. 日本人学生に頼りにされていると実感できた
 N. 自分に自信がついた O. 自分のことがわかった
 P. 以前より他人に感謝するようになった R. その他()
 => => => =>

11) RA を務めてマイナスだったと思うことは何ですか？ 思うこと全てに○をし、その中で特にマイナスになった思うことを5つ選び、その順に並べてください。

- A. 留学生と気軽に遊べなくなった
- B. 留学生に対する偏見ができた
- C. 留学生の言うことを簡単に信用できなくなった。(疑ってしまう)
- D. 日本人学生の言うことを簡単に信用できなくなった。(疑ってしまう)
- E. 留学生よりの他の RA とばかり付き合うようになった
- F. 留学生の欠点が目に付くようになった
- G. 少数の例外を除いて、留学生が嫌いになった
- H. 日本人の欠点が目に付くようになった
- I. 多(異)文化に対して理解がない人を軽蔑してしまう
- J. 仕事に責任感のない人を軽蔑してしまう(以前はあまり気にならなかったが)
- K. 以前より外出しなくなった
- L. 成績が落ちた(学業に興味が薄れた)
- M. 就職活動が十分にできなかった
- N. 性格がすさんだと思う
- O. その他()

=> => => =>

12) 桑の木 RA を後輩や他人に尋ねられたら、どのように答えますか？ また、RA に興味のある後輩や他人に勧めますか？

13) 卒業までにもう1年あるとしたら、RA を務めたいですか？